

## 前年度（令和7年度）の改善方策について実行した改善結果

翠と溪の学び舎 世田谷区立尾山台中学校  
校長 永野 祥夫

### 1 報告から読み取れることについて

#### 【成果として】

- ① 生徒・保護者ともに学校行事や部活動への評価が高い。
  - ・学び舎の連携によって授業体験や部活動体験を行っており、その結果として評価が高いことが推測される。
  - ・また、部活動は、教職員も進んで顧問を引き受ける体制ができている。
  
- ② 学校生活は、生徒にとって達成感がある。
  - ・生徒会活動を中心に、生徒が日頃から関心の強い事柄や領域に対し、積極的に関わる体制が整っている。
  - ・日々の学校生活が充実できているかどうか、クラス担任や各学年主任が、毎週の定例会にて報告することで、生徒の達成感につながっている。

#### 【課題として】

- ① 保護者へ本校の指導の重点が十分に伝わっていない。
  - ・各学年だよりや学校だよりを通じて、教育活動の周知に取り組んでいるが、保護者へ伝わっていない現状がある。
  - ・今年度は、「学校の指導の重点」の「説明の在り方」について早急に点検し、実行することを強く求めていく。
  
- ② 地域への情報提供が十分に伝わっていない。
  - ・保護者への周知と同様で、紙面にて広報を進めてはいるものの、学校の活動状況を十分に周知できていない。
  - ・ホームページでの発信をさらに進めるとともに、学校運営協議会やおやじの会での発信力を高め、情報共有できる場を増やす。

### 2 報告を受け、今年度の学校経営方針への位置づけについて

- ① 自分のよさや可能性を信じながら、何事にもチャレンジする。
  - ・学習活動を基本に、与えられた諸活動に対し、積極的に取り組める環境を整え、何事にもポジティブにとらえさせる。
  - ・日頃から活動している取り組みを大切にさせるとともに、特にチャレンジしたい活動にアプローチさせる環境を設定させる。
  
- ② 保護者・地域の方との連携を深め、生徒指導を包括的に進める。

- ・地域行事に積極的に参加させるとともに、PTAやおやじの会の出店に、ボランティア活動として活動させる。
- ・地域の青少年育成活動に、定期的にかかわる計画を事前に立て、保護者の確認のもと、諸活動に従事させる。

③ 困難にもあきらめず、最後まで粘り強くやりぬく生徒の育成。

- ・各教科係や各委員会活動等、各クラスでの役割分担について、一人一役を必ず割り当てさせ、一年間を通し、確実な取り組みをする手立てを作る。

③ 地球の一員として、自ら行動すると共に、SDGs 目標を「自分事」とする。

- ・「SDGs 17 目標」をどれだけ認知しているかを確認させる。フードロスだけでなく公平の観点を大切にさせ、特別支援学級との交流を積極的に行う。

⑤ 夢をかなえてくれる手立てがたくさんある学校。

- ・夢をかなえるのはむずかしいが、その手立てをたくさん作り、その機会を生かしながら夢を実現させるためのアプローチを進める。
- ・特に、特別活動においては、生徒が達成感を感じる機会を多く設定するとともに、達成した際は、記録に残し、成果がすぐにわかるようにする。

### 3 次年度の方針について

① 昨年度（またはそれ以前）との変容を比較するために、引き続き同様項目のアンケートを実施。

- ・これまでのアンケート項目を見直し、昨年度より、より実態がつかめるようにした。このアンケート項目を続けて、実態把握をより明確にする。

② 評価の分析および、編集を学校運営協議会に依頼を行い、本校への学校経営方針の指標としていく。

- ・学校関係者評価委員会の経験をもとに、学校運営協議会の各委員の分析力を高めていきたい。